

来週の「売り物」記事はこれ



2012年2月3日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

哲学カフェって？ くらしナビC面 7日(火)

コーヒーなどを飲みながら、さまざまな問題を自由に議論する「哲学カフェ」が全国に広まっています。特に東日本大震災後は、震災をテーマにした哲学カフェが各地で盛況といます。若者からお年寄りまで約80人が参加した仙台市の哲学カフェをのぞきました。



いきいき料理教室・鉄分をしっかりとる

くらしナビB面 7日(火)



冬はホウレンソウなど青菜に鉄分が多く含まれ、鉄分豊富なカキは旬を迎えます。鉄分は体全体に酵素を運び、不足すると貧血や疲労を起こします。そこでカキを中心に鉄分をうまく料理に取り入れる方法を紹介しします。カキのパエリアなど、ぜひお試しください。

東日本大震災くらしどうなる？ 福島の米問題

くらしナビA面 8日(水)

全国有数の米どころである福島県の米が売れず、農家や精米業者らが苦しんでいます。放射性物質がまったく検出されなくても、「福島県産」と表示されれば、キャンセルが出る状況です。移転を検討する精米業者も出るなど、福島の厳しい現状をレポートします。



運動面連載「インサイド」

五輪の理想像を求めて——冬季ユース五輪ルポ

8日から5回



国際オリンピック委員会（IOC）は1月にオーストリア・インスブルックで、18歳以下の若者による冬季ユース五輪を初めて開催しました。2010年に初開催の夏季大会とともに、ジャック・ロゲIOC会長が、五輪精神の理想を求めて創設した大会です。その大会を現地取材し、五輪が理想とする将来像を探ります。8日から5回の連載予定です。

オリンピックは肥大化、商業主義化、勝利至上主義によって、スポーツによる国際平和・友好の祭典という本来の意義が見失われる危機感を持たれています。ユース五輪では、競技だけでなく、ロゲ会長と選手の対話集会など「文化・教育プログラム」にも力が注がれました。金メダル争いや経済効果ばかりが注目される中、新たな五輪の姿を描くことはできるでしょうか。

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

水中写真家、中村征夫さん

7日（火）から2週・10回

「時代を駆ける」は7日から、水中写真家の中村征夫(いくお)さん(66)＝写真＝です。

中村さんは、世界中の海で生き物たちのドラマを撮り続けている水中写真の第一人者。汚れた東京湾にも豊かな生態系があることを紹介し、魚やイソギンチャクのユーモラスな表情を捉えた作品などで知られています。1988年に「木村伊兵衛賞」、2007年に「土門拳賞」に輝き、過去3人しかいないダブル受賞者の1人です。

秋田県で自然に囲まれて育ち、高校卒業後に上京。独学で写真技術を磨きました。太平洋の海底に沈む旧日本軍の潜水艦を撮影し、新聞の1面に掲載されたことも。海中で過ごした時間は、通算で約3万時間にのぼります。

鮮やかな写真を通し、自然保護を訴え続ける中村さんを通し、開発や乱獲に脅かされる海の現状について考えます。



資金がなければ、組織もない

今どきの「反原発デモ」は、ツイッターにアイデア勝負

夕刊特集ワイド面 6日（月）



福島第1原発事故を目の当たりにして、「原発ノー」の声がわき起こり、全国各地で反原発デモが巻き起こっています。でも、実はそうしたデモの多くは、労組や消費者団体に主導の旧態依然としたスタイルです。そうしたなか、若者たちの間では、まったく新しいスタイルのデモが始まっています。ツイッターを使って知らない者同士が集まったり、コスプレで主張を叫んだり、これまでなかったスタイルで繰り広げられています。ただ、昔のデモスタイルを懐かしむ人たちにとって、少し不満げな様子。けれども、若者たちは思い思いの格好で声を張り上げます。「原発ハンタ〜イ」。そんな新しいデモの姿を、ルポライターの鎌田慧さん、作家の雨宮処凛さんらと追いました。

“知りたいが分かる”がモットーの毎日新聞夕刊「特集ワイド」。どうぞご期待下さい。